

報告第9号

若桜鉄道株式会社の経営状況について

6月7日に第37期定時株主総会が開催され、令和5年度の事業報告がございました。

令和5年度の事業概要を申し上げますと、旅客人員は42万4千人余で、前年に比べて約5万人余の減少となりました。

夏から秋にかけてインバウンドと個人旅行者の増加もあり、普通旅客は7万590人と昨年とほぼ横ばいであった一方で、通勤旅客は約25%、通学利用者は、八頭高校前駅からJR郡家駅区間の定期券購入減少により、約10%減の32万人余となったためです。

旅客収入は、4,858万円余で、前年より6万余の増収となり、コロナ前まで回復しました。令和5年度から通学費助成の上限額を引き下げたことにより、町内の定期購入者が増加したこと、割引率の低い1箇月定期の購入者が増加したことが主な要因となりました。

また、安全対策としましては、枕木交換、老朽化が進む保安通信設備の改良や、踏切の安全対策などの安全関連施設の更新や修繕を行うとともに、若桜号の重要部検査を受けております。

次に、収支の概要についてであります。令和5年度営業収益として運賃収入、若桜町及び八頭町からの受託費、物販売上などの営業外収益等を合計しますと、3億2,640万円余の収入がありました。

その中で人件費、業務費、運輸費、修繕費など、固定費の経費削減に努めてまいりましたが、燃油や光熱水費、資機材の高騰により支出合計額は、3億3,890万円余と、昨年に比べ1,550万余増加となりました。結果、単年度の経常損益は、1,240万余の赤字となりましたが、県の物価高騰対策事業、国のインバウンド造成事業などの活用により、最終的な決算では、81万円余の黒字となりました。

特に営業外収益につきましては、SL／DLの体験運転、写真撮影プランの実施や物販回数を拡大したことなどによる営業外収益が確保できたことが奏功していると思われます。

以上で、令和5年度の若桜鉄道株式会社の経営状況の報告といたします。

議案第 7 5 号

令和 6 年度八頭町一般会計補正予算（第 3 号）

今回の補正は、既定の歳入歳出予算の総額にそれぞれ、1 2 5 万円を追加するものです。

歳入は、県支出金、家計負担激変緩和対策事業県補助金、1 2 5 万円、歳出では、民生費の社会福祉総務費に、家計負担激変緩和対策事業、2 5 4 万円余を追加し、予備費で調整をしております。